



子育てつうしん

令和7年1月5日
認定こども園ひばり保育園
境木 晴苗

新年あけましておめでとうございます。皆さん、年末年始はどのように過ごされましたか？当園は今日から子どもたちが元気に登園しています。年末年始で思い出に残っている出来事を、久しぶりに会う友達や先生に話しています。

〈子どもの利他性〉

利他性という言葉をご存知ですか？見返りを求めずに、相手を助けることを利他的行動と言います。つまり、他者に対する思いやりや手助けの気持ちでもあります。他者が落とした物を拾って渡してあげる行動も、利他的行動に含まれます。この利他的行動の土台は、生まれつきある程度備わっているとされています。さらに、様々な経験をする中で、「誰かのために…」という感覚がさらに発達していきます。



〈思いやり・助け合いの心を育てるには…〉

利他的行動の土台を育てるには、どのような関わり方や経験をするとういのでしょうか…。どのような関わりをするとういのか、年齢別でご紹介します。ぜひ試してみてください。

- ① 0～1歳頃…安心感や優しくされる経験が大切です。子どもが求めたら答えるという、応答的な関わりが重要です。そのような経験から「自分は大切にされている」という感覚を持ちます。その感覚が他者への共感の芽に繋がります。
- ② 1～3歳頃…共感と簡単な手助けによる成功体験をすることが大切です。この頃から自分以外の人を認識するようになってきます。「困っているんだね」「悲しいね」と気持ちを言葉にしてあげたり、大人の手伝いをした時に「ありがとう」と伝えてあげたりすると良いと言われています。この経験は、相手の気持ちを考えたり、困っている人を助けようとしたりする行動に繋がります。
- ③ 3～6歳頃…仲間意識が芽生え、社会性が伸びる時期です。ここで利他性が大きく育ちます。一緒に何かを作ったり、ごっこ遊びで他者の立場になったりする経験が有効と言われています。また、困っている人がいる時に、大人が助けてあげるよりも「どうしたら助けられるかな？」と子どもに考えさせると良いかもしれません。この経験が、他者の立場に立って考える力の発達や、高度な利他的行動に繋がります。

〈利他的行動に関する絵本〉

「どうぞのいす」や「しんせつなともだち」など、協力や思いやりに関する絵本もたくさんあります。ぜひ、お子様と一緒に読んでみてください。



ひばり保育園では、毎週月曜日と水曜日に園開放を行っています。
子どもに関するご相談がありましたら、お気軽にご利用ください。

